

許 媛 (きょ・えん) さん (株) 熱気球 代表 インタビュー

さまざまなご縁に感謝して ～仕事、同友会、日中を語る～

中国専門の旅行社「株式会社熱気球」を経営する中国出身の許媛 (きょ・えん) さん。来日してもう二十数年になります。日本での経験やこれからのビジョンをお聞きしました。



▲笑顔で語る許(きょ)さん

——これまでの経緯をおしえてください。

上海の高校を卒業して、留学のため来日しました。日本の大学卒業後、同じ上海出身の留学生だった夫と結婚。子供が生まれてからは専業主婦を8年間続けました。そのころ、日本語学校時代からの友人が経営する旅行社を手伝うことに。航空チケットの手配、通訳、翻訳という業務でした。新型肺炎 (SARS) の影響で渡航者が激減する大変なときでしたが仕事は大変面白かった。その後、友人から経営を引き継ぎました。中国人にとって共稼ぎは当たり前。私は働きたいと思っていたところでチャンスでした。

——同友会との出会いは？

ある経営者から「同友会では経営が勉強できるうえ、人脉も作れる」と誘われました。入ったのは東大阪東支部。日本には専業主婦が多いと思っていたのですが、ここで尊敬できる女性経営者にたくさん出会えました。中本さん (インターフォワードシステムズ)、東野さん (東野鉄工所)、西松さん (西松税理士・中小企業診断士事務所) などの方々です。共通点は、彼女らの母親も仕事をしていた、ということ。背中を見ていたのでしょう。

——尖閣問題でビジネスはどうなりましたか？

ネットの普及もありますが「島」の件で売上は落ちました。でも私は楽観的な性格で「なんとかなる」と思っています。島のことは、本当は棚上げしたほうがいいと思います。大勢の日本人が中国に住み、投資もたくさんしている。中国人はメンツが大切だし、生活も掛かっている。中国語で「家和万事興」と言います。一番小さな単位である「家」が幸せであってこそ万事うまくいく。国と国もそう。隣家 (隣国) との関係は絶対に良くないといけません。

——息子さんが今春、東大に合格されましたね。

彼が8歳の時に仕事を始めたので、ちょうど10年です。私たち夫婦は日本でゼロから出発し、必死でした。息子は夫の姓である「邵 (しょう)」を名乗っています。一度だけ「邵」という苗字を背負って、どんな気持ちかわかりますか？」と息子から問われました。日本人の学校に通い、コンプレックスがあったのかもしれませんが。でも「自分の名前に誇りを持ってほしい。邵家でなければ今のあなたとは違う人生だよ」と言いました。彼は小学校の時から深夜まで勉強し、ずっとトップの成績。スポーツも頑張った。高校1年のときに東京大学を目標にし、無事に現役合格できました。これからは何国人でなく人物の中身が問われる時代。能力があればどんな世界でも生きていけます。

——これからのビジョンは？

息子の高校の卒業式で「別れの歌」を聴いて涙が出ました。もう日本のほうが長くなりました。日本のおかげで今の私があります。最近は大人だけでなく子供にも中国語や中華文化を教えています。いまこそ民間人がもっと交流しないと。とにかく日本人には中国へどんどん行って、直接見てほしい。そのためのお手伝いをし続けます。

インタビュー：日中経済交流研究会 広報委員会
(株) ギャレーグルー 合田 耕作
大山印刷 (株) 大山 武久
村田社会保険労務士事務所 村田 晃一
まとめ：坂元鋼材 (株) 坂元 正三